

令和8年度第1回学校運営協議会 議事録

期日 令和8年5月19日(火)

場所 静岡県立伊豆の国特別支援学校 会議室

1 開会・校長挨拶

2 学校運営協議会委員 自己紹介

3 学校運営協議会について

学校運営協議会の位置づけと目的

- ・組織の一員としての参画： 静岡県の特別支援学校では実施されている制度。委員は「学校評議員」のような外部の役職ではなく、学校組織の一員（仲間）として任命される。
- ・主な目的： 本年度の「学校経営計画」の承認を得ること、および学校経営や子どもたち、教職員について各視点から忌憚のないアドバイスをもらい、一緒に学校と地域を盛り上げていくこと。

4 学校経営計画の説明

学校経営の基本方針と評価方法

- ・グランドデザイン： 「良さが輝き、未来をひらく」を掲げ、子どもたちが未来に向かって自分の良さを輝かせることを目指す。
- ・学校評価： 具体的な目標に対して「A（達成できた）」「B（概ね達成できた）」の割合（成果目標）をパーセンテージで設定し、教職員や保護者による評価を行う。

学校経営を支える「4つの柱」と重点ポイント

- ・学校経営計画の具現化に向け、以下の4つの柱を軸に取り組む。
 - 安全安心： ヒヤリハットの迅速な報告・共有による早期対策の徹底。
 - 専門性： 専門知識を日々の授業や具体的な指導支援に活かす。（実践知）
 - 連携： 地域資源を活かしたキャリア教育と、保護者・関係機関との協働。
 - チーム学校： 働き方改革とタイムマネジメントにより、教育の質と教員のやりがいを向上。

5 研究指定事業について

研究指定事業の目的と基本方針

- ・研究の目的： 小中学校、高校、特別支援学校の教員が相互に学び合うことで、地域と学校が一体となった「共生教育（共生社会）の体制」を構築する。
- ・持続可能性と専門性の向上： 研究期間内だけでなく、今後も持続可能で地域とつながり続ける学校づくりを目指す。特に今年度は教員間の関わり（気軽に行き来できる関係性）に力を入れ、指導の専門性を高めて子どもたちへ還元する。
- ・学校間交流と地域資源の活用： 子どもたちが同年代の多様な人と関わることで、幼少期から共生社会への意識を育む。学校側も地域から支援を受けるだけでなく、清掃活動や防災訓練への参加・協力などを通じて「地域に貢献する（役に立つ）」姿勢を重視する。
- ・各学部の具体的な取り組みと成果

高等部

地域清掃： 公民館やトマトハウスを清掃。住民との交流で働く意欲を育成。

製品販売・展示： 市文化祭での展示や、医療福祉センターでの製品販売。

間接交流： 東部特別支援学校や葦山高校の清掃活動。

中学部

学校間交流： 葦山中・東部特別支援学校との温かい継続交流。

地域資源の活用： 地域住民との花苗植えや竹灯籠作り。

作業製品の活用： 自作製品の寄贈を通じた、生徒の魅力発信。

小学部

地域での活動： 散策（低学年）→収穫体験（中学年）→調べ学習（高学年）と段階的に地域と密着。

学校間交流： 葦山小・葦山南小・東部特支と交流。設定したもの以外でも休み時間に遊ぶなど自然な交流。

6 校内参観

7 感想

学校運営協議会委員より

- ・少人数・小グループ指導が徹底されており、こどもたちも活気がある。
- ・卒業後を見据え、地域をどう巻き込むかの視点が重要。
- ・廊下等の中が整備されており、緊急時の避難誘導も安心。
- ・登下校の送迎や教職員を含めた、学校周辺の総合的な道路安全対策が必要。
- ・障害者雇用の現場視点から、高等部などでの IT スキル教育の導入を提案。
- ・児童生徒の素晴らしい作品（木工・紙製品）を、地域に披露する機会を増やしたい。
- ・成果目標 90%以上という高い数字から、学校の奮闘ぶりが伺える。
- ・優れた支援内容を伝えるため、保護者向けの「校内ツアー」を実施したらどうか。
- ・周辺 4 市町（伊豆・函南・清水など）へ向けた学校公開や連携の余地がまだある。

学校の回答および今後の展望

- ・卒業後の進路と地域連携：こどもたちの良さや指導力を「発信・工夫」し、卒業後の就職や地域連携に繋げる。
- ・雇用への IT 活用：e スポーツや PC 活用などの提案を前向きに受け止め、取り組んでいく。
- ・安全・防災（避難誘導）：「命を守る」ため、不測の事態にも教職員が「自分ごと」として動ける実践的訓練を行う。

8 本日の結びと学校経営計画の承認

- ・**学校経営計画の承認：** 本日の協議会にて、令和 8 年度の「学校経営計画」について委員の皆様より無事に承認を得た。